



テスト本番に強くなる30の方法 Vol.5

テスト本番に強くなる方法 (17)

「見直しは、解ける問題が確実に回答できていることを見直す。」

見直し時間は、解ける問題が確実に回答できているかを確認する。

試験全体を解き終えても時間がわずかに残っていることがあります。後回しにした問題を解いてとりあえず空欄はすべて埋め、まだ時間が残っている場合です。試験全体を解き終えた後にすることと言えば「見直し」ですね。問題1から順番に見直しをしたいところですが、時に判断に困る場面があります。時間は残っているが問題全体を見直すほどの時間ではない場合です。時間配分で困ります。残り少ない見直し時間をどう有効活用するべきか迷います。迷っている時間ですらもったいない。

1つアドバイスがあります。解ける問題が確実に回答できているかを重点的に確認しましょう。自信がない問題を見直ししても、やはり自信がないのではっきりしません。それより、確実に解ける問題で凡ミスがないかを確認するほうが、はるかに価値があります。当たり前でできる問題ほど、うっかりとしたミスが多いです。

- 問題文を誤解していないか
- 初歩的な計算で間違っていないか
- 漢字が間違っていないか
- 英単語のスペルが間違っていないか
- 読める字になっているか

基本的なところでミスをしていたばかりに、回答が台無しになることがあります。わからない問題で点が取れないのは、ある程度諦めもつきます。しかし、わかる問題で間違っているのは悔しくなりません。それで受験が失敗したら、一生傷が残ります。解ける問題が確実に回答できていることを、重点的に見直していきましょう。



テスト本番に強くなる方法 (18)

「問題用紙に書き込みを入れる。」

問題用紙にどんどん書き込みをする人が、試験でも高得点を得る。

ときどき問題用紙に書き込みを控える人がいます。きれいな状態で問題用紙を提出したいと考えているのですが、試験ではまったく不要です。問題用紙は汚すものです。たくさん汚しましょう。問題を読んで、回答しやすくなるような書き込みは、ためらわず、どんどん書き込んでください。問題用紙にどれだけ書き込みがあっても、減点されることはありません。複数の選択肢がある問題を読んで「これは違おうだろう」という問題から印をつけます。丸印やバツ印をつけて、見やすくしましょう。気になる一文にはアンダーラインを入れて、強調します。点線でもいいです。波線でもかまいません。後から見直しをしようと思う問題には、星マークを付けるなど工夫ください。当然、問題用紙が汚れますが、これでいい。

大切なことは、自分が回答しやすい状態を作ることです。問題用紙に書き込みをしないと、後から読み直したり、考え直したりする時間が発生してしまいます。

もし「問題用紙に書き込んではいけません」と言われても、薄い字で書き込んで、後から消しゴムで消せばいい。そのくらいの度胸がないといけません。問題用紙にどんどん書き込んで、回答しやすくしましょう。

テスト本番に強くなる方法（19）

「あらかじめ過去問や模擬試験を受けて、慣れておく。」

本試験では、学力だけでなく、慣れも反映される。アウトプットの練習をせよ。

テストは、本人の学力が反映されます。と言いたいところですが、実は違います。学力以外に、もう1つ反映される要素があります。

それは「慣れ」です。

いくら学力があっても、試験の形式や雰囲気慣れていないがために、失敗すると言うことはよくあります。「一生懸命に練習したスポーツ選手が、本番の緊張に負けて本来の力を発揮できなかった」なんてよく聞く話ですよ。大学入試や資格取得の試験でも同じで、学力以外に「慣れ」も得点につながります。過去問を解くと以下のようなメリットがあります。

出題形式がわかる

出題される問題の傾向がわかる

本番試験さながらの緊張や雰囲気を味わえる

本番でスムーズに回答できるようになる

過去問を解かずいきなり本試験に挑むと、度肝を抜かれます。想定外の出題形式のため、形式を把握したり回答方法で戸惑ったりなど、無駄な時間を使うことがあります。慣れない雰囲気で緊張したり焦ったりすることもあるでしょう。「思っていたのとは違う」そんなことがないように、あらかじめ形式や雰囲気に慣れておくことが必要です。

インプットの練習ができれば、アウトプットの練習です。ため込んだ知識を吐き出す練習をして、慣れておきましょう。試験は学力だけでなく、慣れによって左右されることがあります。高校入試や大学入試の本試験前には必ず「過去問」を解くことをおすすめします。過去2、3年分といわず、過去問を受けられるだけ受けておきましょう。20年分の過去問があれば、20年分の過去問を受けておきます。大手予備校が主催している本番さながらの模擬試験があれば、受けておくのもいいでしょう。その準備があれば、本番ではスムーズに回答ができます。



テスト本番に強くなる方法（20）

「どんなにわからない問題が出て、とにかく空白は埋めるようにする。」

テストの点数には、運の力も含まれている。

高校2年生のときの担任は、米井先生という英語を担当する男性教師でした。米井先生はとても厳しい先生でした。怒るときには、大きな声で隣の教室まで聞こえるような声で怒鳴ります。しかし、米井先生が怒るシチュエーションは、少し変わっていました。「テストで悪い点を取ったとき」ではありません。テストで悪い点を取ったときは「次から頑張れ」で終わります。米井先生が本当に怒るのは「テストの答案用紙に空白があるとき」でした。

生徒の中には、知らない問題は答えの書きようがないと思い、空白のまま答案用紙を提出する人がいます。これを米井先生はひどく嫌いました。「運も実力のうち」そう断言していました。

「どんなにわからなくてもいいからとにかく空欄を埋めろ！ テストの点数には運も含まれている」

たとえ、たまたま偶然で正解したとしても米井先生は「運も実力のうち」と言って許してくれません。空欄でテストを提出する生徒がいるたびに怒鳴ります。

米井先生からの教えを受けて、私の場合、見当の付かない問題が出て、とにかく空欄は埋めるようになりました。適当でもいいし、勘でもいい。空欄は確実にゼロですが、何か書けば、正解する可能性はあります。場合によっては部分点をもらえることもあるでしょう。たまたま正解でもいい。運も実力のうちなのです。